日本禁煙推進医師歯科医師連盟

宮 城 支 部

10年のあゆみ

1994～2004年

目　次

巻頭言

日本禁煙推進医師歯科医師連盟・宮城支部　10 周年記念誌発刊のお祝い　大島　明

21 世紀はたばこのない社会に　山本　蒔子

Ⅰ　宮城支部の設立と経過

日本禁煙推進医師歯科医師連盟について　1

世界禁煙デーの歩み　2

日本禁煙推進医師歯科医師連盟・宮城支部の設立と活動　3

Ⅱ　10 年間の活動内容

世界禁煙デー・宮城フォーラム　第 1 回～10 回のテーマ　7

1995 年　第 1 回宮城フォーラム「たばこ病よ　さらば！禁煙デー」　8

1996 年　第 2 回宮城フォーラム「たばこ病よ　さらば！禁煙デー ' 96」　13

1997 年　第 3 回宮城フォーラム「学校を無煙環境に！　禁煙デー ' 97」　18

河北新報掲載記事　2 題　23

1998 年　第 4 回宮城フォーラム「禁煙の方法教えます ' 98」　25

宮城県内　禁煙指導実施医療機関一覧　31

1999 年　第 8 回日本禁煙推進医師歯科医師連盟　総会（仙台）　32

第 5 回宮城フォーラム「青少年をたばこから守ろう ' 99」　34

2000 年　第 6 回宮城フォーラム「禁煙の方法を広めよう　2000」　40

2001 年　第 7 回宮城フォーラム「みんなですすめる防煙・禁煙・分煙 ' 01」　46

2002 年　第 8 回宮城フォーラム「スポーツにたばこはいらない ' 02」　50

「たばこ対策ネットワーク・みやぎ・せんだい」の設立　52

禁煙外来の歩み　54

2003 年　第 9 回宮城フォーラム「公共の場を禁煙に ' 03」　56

禁煙指導研究会の発足　60

河北新報掲載記事　62

禁煙パンフレットの発行　63

2004 年　第 10 回宮城フォーラム「学校にたばこはいらない！ ' 04」　67

Ⅲ　規約　会員名簿

日本禁煙推進医師歯科医師連盟・宮城支部　規約　77

日本禁煙推進医師歯科医師連盟・宮城支部　会員名簿　79

GROWING UP
TOBACCO FREE
タバコのない
21世紀へジャンプ

日本禁煙推進医師歯科医師連盟・宮城支部 10周年記念誌発刊のお祝い

日本禁煙推進医師歯科医師連盟

会長　大島 明

この度、日本禁煙推進医師歯科医師連盟・宮城支部が 10 周年記念誌を発刊されると、支部長の山本蒔子先生からお聞きし、一言お祝いの言葉を寄せさせていただきます。

日本禁煙推進医師歯科医師連盟が発足したのは 1992 年 5 月 31 日の世界禁煙デーで、今年 13 周年を迎えます。この間、たばこの害を良く知る医師・歯科医師の広範な連携によって国民の健康をたばこの害から守ることを目的として様々な活動を行うとともに、毎年総会を開催して参りました。宮城支部は、1994 年の総会に参加された山本蒔子先生の呼びかけで 1994 年に発足し、その後宮城県における禁煙推進の核となって様々な活動を実践され、成果をあげてこられました。その成果は、この記念誌に詳述されている通りです。なお、日本禁煙推進医師歯科医師連盟では、宮城県に引き続き、北海道、広島県、鹿児島県、兵庫県、愛媛県、和歌山県にも支部が設けられ、今日に至っています。

さて、皆様ご承知のとおり、2004 年 11 月 29 日に WHO「たばこ規制枠組条約」の批准国は 40 カ国に達し、90 日後の 2005 年 2 月 27 日に発効することとなりました。「条約」には、たばこ価格・税の引き上げ(第6条)、たばこ煙への曝露からの防護(第8条)、たばこ製品の包装およびラベルの警告表示の強化(第 11 条)、たばこ製品の広告、販売促進およびスポンサーシップの包括的禁止(第 13 条)、禁煙治療の普及(第 14 条)、未成年者への販売の禁止(第 16 条)などの対策が具体的に示されています。

これらの対策を誠実に実行することは「条約」締約国会議の一員としての国際的な約束であり、日本の現在と将来の世代をたばこの害から守るために必須の要素です。これらの諸対策の一日も早い実現を強く政府などに働きかけて行く必要があります。WHO には"Think globally. Act locally."という標語がありますが、これは、たばこ規制の取り組みに最もよく当てはまります。中央官庁や議会など政策決定者にたばこ規制のさらなる推進を働きかけて実現していくためには、たばこ規制の先行事例として外国での取り組みの経験に学ぶとともに、各地方特有の状況にあわせた地方独自の取り組みに基づく世論の盛り上りが必須です。宮城県での取り組みが発展することは日本全体のたばこ規制の取り組みの前進につながりますので、宮城支部の今後の活動がますます発展されることを大いに期待しています。よろしくお願い致します。

21 世紀はたばこのない社会に

日本禁煙推進医師歯科医師連盟・宮城支部

支部長　山本 蒔子

日本禁推進煙医師歯科医師連盟(略:禁煙医師連盟)は 1992 年に医師と歯科医師が連携してたばこの害から国民を守る事を目的に作られました。公衆衛生の専門家から、内科、小児科、精神科、産婦人科、外科、眼科等、研究分野や患者を診療する臨床分野まで、多くの医師と歯科医師が会員です。

禁煙の推進には、地域において核になる組織が必要と考えて、宮城県の会員 15 名で、宮城支部を 1994 年 9 月 30 日に、全国に先駆けて結成しました。

たばこを売っている産業が莫大な広告費をかけて宣伝している。日本全国に 60 万台の自動販売機があって、いつでも何所でもたばこが安く簡単に手に入り吸える。大人の半分はたばこを吸っているのが日本の状況です。

しかし、一方では、肺がんや胃がんになったり、舌がん等の口の中のがんになったり、脳梗塞のため半身麻痺になり、足の血管が詰まって、痛みに苦しみ歩行が出来なくなったり、心筋梗塞になってバイパス手術を受けたり、低肺のため酸素ボンベを手放せなくなったり等、たばこが原因の病気で苦しんでいる人は大勢います。

現在の日本人は、たばこに対して重大に考えず「たばこは止められない」、「病気にならないと止めようと思わない」「そんなに吸っていないから平気」「国が売っているものだから大丈夫」等と楽観的に考えています。そして、致命的な病気になって初めて禁煙したいと思うのです。

これでは余りに遅すぎます。これからの 21 世紀は、従来の思い込みから脱却して、『たばこは人生を破滅させる麻薬』、『たばこには手を出さない』を子供達教えましょう。吸っている大人には『たばこは誰でも止められる』事を知らせ、禁煙の方法を広めましょう。これが禁煙医師連盟・宮城支部の目指すところです。

そして、多くの人が連携して活動を盛り上げ、21 世紀はたばこのない社会を作りましょう。

日本禁煙推進医師歯科医師連盟（略称：禁煙医師連盟）

医師と歯科医師の広範な連携によって、国民の健康をたばこの害から率先して守ることを目的に1992年5月に結成された。主な活動方針は以下の通りである。

① 医療機関、保健福祉施設、学会場の禁煙の推進
② 医療機関、地域、職域、教育機関等で禁煙教育を行う
③ たばこの害に関する知識の普及
④ 内外の禁煙団体との連携
⑤ 会員の拡大

Japan Medical-Dantal Association for Tobacco Control

日本禁煙推進
医師歯科医師連盟

（略称：禁煙医師連盟）

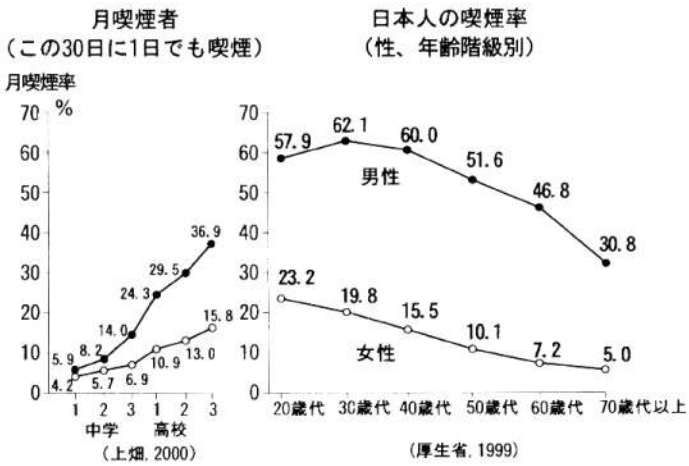
私たちは人々をたばこの害から守るために努力しています！

◆目的

医師・歯科医師の広範な連携によって、国民の健康をたばこの害から守ること。

■現在、日本人の成人喫煙率は、

男性約50%以上で先進国の中では群を抜いており、特に最近、青少年や若い女性による喫煙の増加が問題になっています。



■たばこが引き起こす疾患は、

がん、循環器疾患、呼吸器疾患をはじめ数多く、受動喫煙により肺がん、虚血性心疾患、慢性気管支炎、動脈硬化、アルツハイマー病のリスクが増大することもわかっています。また、妊婦の喫煙は、不妊、流・早産、奇形、低出生体重児、乳幼児突然死症候群（SIDS）などの原因になり、夫の喫煙も不妊や低出生体重児のリスクを高めます。さらに、歯科領域でも最近、喫煙により歯周病が悪化することが明らかになり、注目されています。

■このような「たばこ病」から国民の健康を守るためには、

医師・歯科医師が自らの役割と責任を認識することが必要です。日本禁煙推進医師歯科医師連盟は医師・歯科医師の広範な連携による喫煙対策の推進を目指し、1992年5月に結成されました。

最近は、健康増進法施行やたばこ対策枠組条約によって、たばこ問題への関心が高まっています。

世界禁煙デーの歩み

国際的には，WHO が 1970 年以来再三にわたり，喫煙の害に関する衛生教育，非喫煙者の保護，たばこから他の作物への転換等の保健分野のみならず社会・経済・農業等の幅広いセクターをまき込んだ総合的な喫煙対策を推進することの必要性を決議している。また 1980 年には世界保健デーのテーマを「喫煙か健康か選ぶのはあなた」〔Smoking or health, the choice is yours.〕として反喫煙のキャンペーンを行い，1986 年には，公共の場所における非喫煙者の保護，子供や若年者の防煙対策の実施，たばこの習慣性等に関する警告表示の実施等について決議が行われた。1987 年には WHO 設立 40 周年に当たる 1988 年 4 月 7 日を「世界禁煙デー」として，当日の喫煙断念，たばこ販売自粛の措置をとるよう各国に呼びかけが行われた。テーマも〔Smoking or health, choose health.〕に変わった。

◆世界保健機関による 世界禁煙デー(5 月 31日)スローガン

1988 *Tobacco or health : choose health*
（たばこか健康か－健康を選ぼう）

1989 *The female smoker : at added risk*
（プラスされる女性喫煙者への害）

1990 *Growing up without tobacco*
（子供に無煙環境を）

1991 *Public places and transport : better be tobacco-free*
（公共の場所や交通機関は禁煙に）

1992 *Tobacco-free workplaces : safer and healthier*
（たばこの煙のない職場－もっと安全にもっと健康に）

1993 *Health services : our window to a tobacco-free world*
（ヘルスサービス：たばこのない世界を開く窓）

1994 *The media and tobacco : getting the haalth messaga across*
（メディアとたばこ：健康のメッセージを広めよう）

1995 *The economics of tobacco control*
（想像以上に大きいたばこの損失）

1996 *Sports and the arts without tobacco*
（スポーツと芸術をたばこの煙のない環境で）

1997 *United for a tobacco-free world*
（手をつなごう！たばこのない世界をめざして）

1998 *Growing up without tobacco*
（無煙世代をそだてよう）

1999 *Leave the Pack Behind*
（たばこにサヨナラ）

2000 *Tobacco kills-Don't be duped*
（その一本　みんなの命けずられる）

2001 *Second-hand smoke kills. Let's clear the air*
（他人の煙が命をけずる：受動喫煙をなくそう）

2002 *Tobacco Free Sports-Play it clean!*
（たばことスポーツは無縁（無煙）です。－きれいにやろう！－）

2003 *Tobacco free film tobacco free fashion Action!*
（たばこと無縁の映画やファッションへ　行動を）

World No Tobacco Day 2004 ***: the vicious circle of tobacco and poverty*** 「タバコと貧困：悪循環」

たばこと貧困の間には密接な関連がある。とりわけ最大のたばこ消費者である貧困者においては、不安定な経済や収入に加えて健康にも有害な結果をもたらしている。

日本禁煙推進医師歯科医師連盟・宮城支部の設立と活動

日本禁煙推進医師歯科医師連盟・宮城支部
支部長　山本蒔子

国鉄が民営化した直後の平成元年に、私はJR仙台病院健康管理センター（当時は保健管理部）に赴任しました。当時の鉄道の職場は、どこもたばこの煙の臭いが染み付いていました。産業医として働き始めたばかりの私は、その環境を変えていける方法は考えつかず、半ば諦めていました。

しかし、私は平成２年から３年にかけての冬に、思いがけないことに遭遇しました。11 月から毎月一人づつ、連続して５名の突然死で亡くなる社員が出たのです。大きな驚きとともに、健康管理をしている立場として、何らかの対策を考えなければならないと思いました。
この５名に共通していたリスクはたばこでした。４名は喫煙者で、1 名はたばこの煙のもうもうたる職場で働いていました。たばこによる動脈硬化が基礎になって、冠動脈疾患を起こし、心筋梗塞でなくなったものと推測されました。

当時、たばこが健康に悪いとの認識はあるものの、医師が医学的な立場からたばこの害を取り上げて、禁煙を指導することはほとんど行われていませんでした。この事件がきっかけになって、社員の健康管理のために、たばこの害の啓発に取り組もうと強く思いました。何しろ医学部においても、たばこの害についての教育は受けていませんでしたから、国内外の文献を集め、たばこの害について一から学びました。

まず、社員に受動喫煙の害について啓発を始め、JR東日本仙台支社ビルの分煙に平成 5 年から取り掛かりました。総務部長を動かし、喫煙対策プロジェクトを立ち上げ、支社に働く700 名にたばこ対策のアンケートをとり、分煙の方針を確認し、喫煙室を作り平成６年２月に分煙開始に成功しました。

分煙推進と平行して、禁煙指導を実施している医療機関を探し、使用しているパンフレットを手に入れ、禁煙指導の準備をしました。平成４年頃、ニコチンガムの治験が日本でも始まり、ニコチンガムを発売していたマリオンメレルダウ社を通じて、たばこに関する研究会を知り、平成 4 年に発足した日本禁煙推進医師歯科医師連盟を知りました。医師と歯科医師が連携してたばこの害から国民を守ろうとする団体が日本にも誕生していたのだと感激しました。会長は故五島雄一郎先生（東海大学医学部名誉教授）であり、宮城県では、連盟の発起人でもある久道茂先生（当時東北

大学医学部公衆衛生教授）や長池博子先生（元宮城県女医会会長）他 15 名の会員がいました。

私は平成 6 年 2 月に、初めて連盟の総会に参加し、仙台支社ビルの喫煙対策プロジェクトと分煙実践を発表しました。そして、そこに集まっていた禁煙を進めようとする熱心な約 100 名の医師と歯科医師に出会って、大変力付けられました。この総会から帰ってすぐに、宮城支部を立ち上げようと思いました。禁煙を推進するためは、地方において核となって活動する組織が必要と考えました。

私が当時の会員に連絡して、平成 6 年 9 月 30 日に、JR仙台病院勤務の古橋信晃先生（産婦人科）大高要子先生（歯科口腔外科）、横山成紀先生（長町病院）、広瀬俊雄先生（錦町診療所）、田浦勝彦先生（東北大学歯学部予防歯科）の 6 名で、宮城支部の設立を決めました。勤務していたJR仙台病院の当時の院長大内博先生は血管外科の専門科であり、禁煙も熱心でしたので、大内先生と久道先生を顧問として、私が代表となり、事務的な仕事はJR仙台病院勤務の古橋、大高、山口佳子（小児科）の各先生が担当する事として、スタートしました。

翌年の平成 7 年 2 月には、久道茂、長池博子、鴫原勇次郎、菅野興与、菅野庸、野田茂樹、横山成紀、広瀬俊雄、田浦勝彦、古橋信晃、大高要子、山口佳子各先生と私の 13 名が出席して、宮城支部の主な活動として、世界禁煙デー・宮城フォーラムの開催を決定しました。それから、毎年欠かさずに、いろいろのテーマを決めて講演やシンポジウムを企画し、経費はJR仙台支社や製薬会社に協賛をお願いし、フォーラムを続けてきました。フォーラム当日の運営にはJR仙台病院の事務系社員、看護師および保健師に協力して頂きました。このフォーラムの開催を通じて、宮城県や仙台市の保健行政で働いている方達、薬剤師、養護教諭、産業保健師、歯科衛生士等多くの方と知り合い、連携を持って禁煙活動や防煙教育に取り組む事が出来ました。宮城県と仙台市の禁煙推進活動を牽引できたと思います。少人数で始めたフォーラムが、このように発展出来るとは予想も出来ませんでしたが、今年でフォーラムは 10 年目を迎えました。

平成 15 年 5 月に健康増進法が施行され、今後たばこ規制枠組み条約（FCTC）が発効すれば、たばこ対策はますます進んでいく事と思います。しかし、日本禁煙推進医師歯科医師連盟の会員は全国で約 1, 400 名です。宮城支部は全国で最初に支部を立ち上げましたので、会員数は多く現在 90 名を数えています。禁煙を推進する医師歯科医師はまだまだ少数です。これからも会員が協力し合い、次の 10 年に向けて、更なる成果を目指して活動を盛んにしていきましょう。

禁煙医師連盟・宮城支部　設立総会、懇親会

ホテル・メトロポリタン仙台
1995 年 2 月 24 日

設立総会＆懇親会風景

設立時の会員

鳴原　勇次郎（鳴原内科）
長池　博子　（長池産婦人科）
菅野　喜興　（緑ヶ丘病院）
菅野　　庸　（緑ヶ丘病院）
野田　茂樹　（柴田町）
山本　蒔子（JR 仙台病院保健管理部）
横山　成紀　（長町病院）
古橋　信晃　（JR 仙台病院婦人科）
広瀬　俊雄　（錦町診療所）
大高　要子　（JR 仙台病院歯科口腔外科）
田浦　勝彦　（東北大学歯学部予防歯科）
山口　佳子　（JR 仙台病院小児科）
久道　　茂　（東北大学医学部公衆衛生）
阿曽　沼　要（阿曽沼整形外科医院）
大内　　博　（JR 仙台病院）

Ⅱ　10年間の活動内容

世界禁煙デー・宮城フォーラム
たばこ病よ　さらば！禁煙デー
■日　時：平成7年5月31日(水) PM1:30〜3:30
入場無料
■場　所：仙台福祉プラザ　ふれあいホール（仙台市立病院向い
地下鉄五橋駅下車南1番出口）
■主　催　日本禁煙推進医師歯科連盟宮城支部
■協　賛　東日本旅客鉄道㈱東北地域本社
■後　援　宮城県，宮城県教育委員会，仙台市，仙台市教育委員会，仙台市健康福祉事業団，河北新報社，
NHK仙台放送局，東北放送，仙台放送，ミヤギテレビ，東日本放送，エフエム仙台，仙台ゾンタクラブ，
宮城県医師会，仙台市医師会，宮城県女医会，宮城県たばこを考える会
問い合せ先：日本禁煙医師連盟宮城支部　代表世話人　山本蒔子
〒980 仙台市青葉区五橋一丁目3-1 JR仙台病院保健管理部　TEL022−266−9671(内線・351) FAX022−262−8926

世界禁煙デー・宮城フォーラム
(第1回～第10回)のテーマ

回数	テ－マ	基調講演／シンポジスト／体験発表者
第1回	たばこ病よ さらば！禁煙デー	工藤啓 鴫原勇次郎 古橋信晃
第2回	たばこ病よ さらば！禁煙デー'96	阿曽沼要 田浦勝彦 大内博
第3回	学校を無煙環境に！禁煙デー'97	山本蒔子 川村幸子 山口佳子 師研也
第4回	禁煙の方法を教えます '98	古橋信晃 石井一 稲村純一 渡部長二郎 日下重美
第5回	青少年をたばこから守ろう '99	浅野牧茂 小田原隆介 文屋仁美 舩山絵美 小野美澄 清本裕介
第6回	禁煙の方法を広めよう 2000	小林賢二 佐藤研 川村秋夫 三村静夫 大滝正通 高橋克子 山本蒔子
第7回	みんなですすめる「防煙・禁煙・分煙」'01	永元則義 園部俊英 今野貞雄 黒沢昌也 川村秋夫 戸田紘子
第8回	スポーツにたばこはいらない '02	大西祥平 小田泰子 戸田紘子 菅原邦子 佐々木直英 小泉亮
第9回	公共の場を禁煙に '03	岩本充 吉岡成二 熊谷善夫 小林修 小西秀康 高橋秀一
第10回	学校にたばこはいらない！ '04	山本蒔子 佐々木弘 寺澤壽美子 糟谷文夫 粉川妙子 吉田敏子

1995年　第1回世界禁煙デー・宮城フォーラム
たばこ病よ　さらば！　禁煙デー

総合討論

会場：仙台福祉プラザ

プログラム

主題：「たばこ病よさらば、禁煙デー」

13:30－13:35　開会挨拶
日本禁煙推進医師歯科医師連盟・宮城支部
代表世話人：山本蒔子氏（JR仙台病院・保健管理部長）

13:35－13:55　「たばこ病；肺癌、心筋梗塞、脳卒中」
工藤啓氏（仙台市健康増進センター所長）

13:55－14:00　質疑

14:00－14:20　「心筋梗塞を経験して」
鴫原勇次郎氏（鴫原内科医院院長）

14:20－14:25　質疑

14:25－14:55　「女性と喫煙」
古橋信晃氏（JR仙台病院・産婦人科部長）

14:55－15:00　質疑

15:00－15:30　**総合討論**
司会：山本蒔子氏（JR仙台病院・保健管理部長）

たばこ病について

仙台市健康増進センター
所長　　工藤 啓

喫煙ががんの原因であることを初めて言ったのは Sommering で、“パイプ喫煙者には口唇がんが多い”と述べており、19 世紀の末までには多くの外科医が“喫煙は舌がんの原因かもしれない”と信じるようになっていた。20 世紀に入って、肺がんの増加と紙巻きたばこの急増に注目したドイツの Mu11er によって初めてたばこ喫煙と肺がんの関係が示され(1939)、喫煙量が多いほど肺がんの危険性が高いことが明らかにされた。(日本では江戸時代に出された貝原益軒の養生訓に喫煙の健康への害が書かれている)

戦後、喫煙と健康の関係についての報告は、1950 年に米国の Wynder と Graham、次いで 1952 年に英国の Do11 と Hill が“肺がん患者は喫煙者に多い”ことを発表したことが始まりと思われるが、この頃はまだ『たばこ病』の概念はなかったようだ。これ以後、多くの研究がなされ、たばこ喫煙が肺がんのみならず多くの疾患や病態をもたらすことが明らかになってくることになる。

『たばこ病』という言葉が出始めたのは、1962 年の英国王立内科学会(or 英国王立医師会)の報告、及び 1964 年の米国公衆衛生局の『喫煙と健康』が発表された頃からである。但しこの頃の『たばこ病』の概念は能動喫煙によって起きる健康障害についてだけであった。このあと WHO でも『たばこ病』という言葉を使うようになり、“予防可能な最大の疾病”と位置づけて対策を講じるようになった。

日本では『たばこ病』という言葉は 1971 年平山雄博士によって初めて提唱された。この時の『たばこ病』の概念には能動喫煙だけでなく受動喫煙、妊婦の喫煙(胎児への影響)による影響も含めて提唱された。平山氏は戦中・戦後約 10 年に渡って極端にたばこ消費の少ない時期があり、朝鮮戦争に引き続く神武景気で紙巻きたばこの大量消費が始まり、その結果肺がんが急増したことに着目して、26 万人を対象に 17 年間の追跡調査を行い、ほとんどの主要死因の死亡率が喫煙者に高率であることを調査している。このあと 1978 年前後以降に各地に「嫌煙権確立運動」がひろまり「嫌煙権訴訟」などが起きたこともあって、日本で『たばこ病』が広く知れわたるようになった。

参考までに、『たばこ病』の疾患には以下のものが含まれる。

◎能動喫煙の影響
- ＊悪性新生物　肺がん、口腔がん、喉頭がん、食道がん、胃がん、肝臓がん
  膵臓がん、腎盂がん、膀胱がん
- ＊循環器系疾患　冠動脈疾患(心筋梗塞、狭心症)、脳血管疾患(脳出血、脳梗塞
  クモ膜下出血)、大動脈瘤、バージャー病
- ＊呼吸器系疾患　慢性閉塞性肺疾患、慢性気管支炎、肺気腫、喘息
- ＊消化器系疾患　胃・十二指腸潰瘍、慢性胃炎、口内炎
- ＊精神疾患　ニコチン依存症

◎受動喫煙の影響　肺がん、小児喘息、低出生体重、虚血性心疾患

◎妊婦喫煙の影響　早産、自然流産、周産期死亡、低出生体重、先天奇形

これらのうち悪性新生物、冠状動脈疾患、脳血管疾患、慢性閉塞性肺疾患は喫煙の健康影響の代表であり、4C と称されている。JARC(国際がん研究機関)はこの他腎臓がんも含めているが、胃・肝臓がんについては積極的でない。子宮頸がんが含められることもあり、歯周炎に対する影響も報告されている。

女性と喫煙

JR 仙台病院・産婦人科
部長　古橋 信晃

女性の喫煙率:20%と増加傾向、男性では 60%で減少傾向

Ⅰ. 女性と喫煙

1. 癌
   肺癌:標準化死亡比では、同じ本数を吸った場合. 女性の方が発癌率は高い
   卵巣癌、子宮癌、乳癌:ニコチンやタール内発癌物質の血液による局所への浸透
   乳癌:受動喫煙により発生率は 2 倍となる。
2. 不妊症. 月経不順
   卵巣循環不全による内分泌異常
3. 閉経、骨粗鬆症:喫煙者では閉経が 1—2 年早い。
   骨粗鬆症:エストロゲン低下
   老化促進:末梢血流障害
4. ピルと喫煙:血液凝固系亢進一心筋梗塞の増加
5. 肌:末梢血流障害、ビタミン C の破壊
6. 味覚:味覚鈍麻による塩分過剰などの調理

Ⅱ. 妊婦と喫煙
   受動喫煙も重大影響

1. 妊娠・分娩の異常:流・早産の増加
   妊娠合併症の増加(常位胎盤早期剥離、前置胎盤、出血、前期破水など)
2. 胎児・新生児への影響:周産期死亡率の増加、
   低出生体重児、身体発育遅延、先天異常の増加
3. 授乳:乳汁中へのニコチンの移行一新生児ニコチン中毒
4. 乳児、幼児への影響.
   受動喫煙
   タバコ誤飲
   将来喫煙者になる。

広告協賛

東日本旅客鉄道(株)東北地域本社　マリオン・メレル・ダウ(株)　大塚製薬(株)
日本チバガイギー(株)　(株)J.G.コーポレーション　庄文堂　プラス(株)仙台支店
株式会社イトーキ　(株)東和商会